

氏名	西村正子
授与した学位	博士
専攻分野の名称	医学
学位授与番号	博乙第3221号
学位授与の日付	平成10年6月30日
学位授与の要件	博士の学位論文提出者 (学位規則第4条第2項該当)
学位論文題目	Wider Distribution of Salivary-type Isoamylase Activity as Compared with Pancreatic-type Isoamylase Activity in Serum: a Study on Young Female Adults (若年女性における膵型アミラーゼ活性に比して広範囲の分布を示す唾液型アミラーゼ活性に関する研究)
論文審査委員	教授 原田 英雄 教授 辻 孝夫 教授 青山 康夫

学位論文内容の要旨

血清アミラーゼには唾液(S)型アミラーゼおよび膵(P)型アミラーゼの二つのアイソアミラーゼがあり、現時点ではS型アミラーゼ活性をモノクローナル抗体を用いて特異的に阻害することにより、S型およびP型アミラーゼ活性の分別定量が可能である。我々はこの方法を用いて健康な若年女性(18歳~23歳)の血清および唾液のアイソアミラーゼ活性を測定し、S型アミラーゼ活性の個体差がP型アミラーゼ活性のそれに比して大きいことを見いだした。また1年間同一の対象に対して、総アミラーゼ、S型アミラーゼ、P型アミラーゼ活性の測定を行い相関分析を行ったところ、これら2回の測定値の間には高い相関がみられ、個人の値は比較的一定していることが明らかになった。また栄養摂取量と総アミラーゼ、P型アミラーゼ、S型アミラーゼの関係も検討した結果、摂取エネルギーとS型アミラーゼ活性とは弱いが有意な正の相関を示し、摂取エネルギーの多い者はS型アミラーゼ活性の分泌が多い事と関連のあることを示した。

論文審査結果の要旨

本研究は健康な若年女性(18-23歳)を対象として血清の膵型(P型)及び唾液腺型(S型)アミラーゼアイソザイムを測定し、S型アミラーゼがP型アミラーゼにくらべてかなり大きな個体差を示すことを明らかにした。同一対象を1年後に調査しても再現性が認められた。また、摂取エネルギーの多い者が唾液腺型の高値を示す傾向を認めた。臨床的にみられるP/S比の算出による診断率向上の試みに警告を与える重要な知見をえたものとして価値ある業績であると認める。

よって、本研究者は博士(医学)の学位を得る資格があると認める。